

拡大マップ2



銚子の民話

延命姫と安倍晴明

昔、ミツネの腹から産まれた安倍晴明という美しい学者が野尻の東光寺に住んでいました。

延命姫という垣根の長者の娘の顔には大きなあざがあるのですが、年頃になっても縁談がありませんでした。

ある日、延命姫は父に連れられて墓参りに行った東光寺で安倍晴明にひと目惚れしてしまいました。姫は晴明に求婚しますが、晴明は姫の顔を嫌がって断りました。姫が毎日のように寺を訪ねるので、晴明は寺を逃げ出し屏風ヶ浦の通運洞へたどり着きます。秘策を思いついた晴明は身投げを装って崖の上に履物と装束を脱ぎ捨てます。晴明を追ってきた姫は履物と装束を見て、勘違いして自分も身を投げてしまいました。

岸に流れ着いた延命姫の歯と櫛は白紙明神(歯櫛明神)として祀られ、江戸時代以降はあざ消しと美人の神様として多くの参拝客で賑わいました。後に川口神社となり漁業の神様として今も厚い信仰を集めています。

観光スポットへの移動に便利な 銚子電鉄と路線バス

銚子電鉄・千葉交通・ちばこうバス
が乗り放題の1日乗車券
銚子1日旅人パス
大人 1,000円 子ども 500円



詳しい情報ははこちら▲



銚子の琥珀

琥珀は植物の樹脂が固まったもので、銚子ではたくさんの琥珀が見つかっています。

日本最古(約1億3千万年前)といわれる琥珀は銚子で見つかったもので、銚子ジオパークミュージアムに展示しています。また、地球の丸く見える丘展望館の2階でもたくさんの琥珀を展示しています。

縄文時代の粟島台遺跡には琥珀製品の加工場があったとされています。

銚子の海岸植物

犬吠埼をはじめ屏風ヶ浦や犬岩など、銚子の海岸付近にはたくさんの種類の海岸植物が自生しています。

春から夏はハマダイコン、スカシユリ、ハマゴウ、オオモツゴサ、ハマウド、ハマカンゾウ、ハマヒルガオなどが、秋から冬はイソギク、ハマアキノキリンソウ、ハチジョウススキなどを観察することができます。

銚子を北限や南限とする海岸植物が多いのも特徴です。